

I .工 事 概 要

1.工事名称：東城市民住宅1号棟外壁改修工事
2.工事場所：庄原市東城町川西865番地2
3.敷地面積：4,841.85㎡
4.構造規模：I号棟【構造】鉄筋コンクリート造5階建一部塔屋2階建て【延床面積】1840.02㎡II号棟【構造】鉄筋コンクリート造9階建一部塔屋【延床面積】1814.06㎡※標準・防水改修

5.工事種目：外壁改修、防水改修
6.別途工事：
7.調査協力について

本工事は工事中及び竣工後、次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応すること。

(1)公共事業労働費削減→工事中に実施（調査票等の記入提出、発注者の調査実施への協力等）
(2)完成施設事後調査（第1次調査）→引渡後概ね6ヶ月後
(3)完成施設事後調査（第2次調査）→引渡後概ね1年以降
(4)かし担保調査→建設工事請負契約約款第4-1条に定める期間内
(5)公共建築物木材利用事例調査票…工事中に実施（調査票の記入提出、発注者の調査実施への協力等）

8.公衆災害防止措置

(1)工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危機、並びに迷惑を防止するために必要な措置をとることとして上記について、「建設工事公衆災害防止対策要綱(平成5年1月12日付建設事務次官通達)」に基づき実施すること

9.現状復旧

工事に際し、隣接建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと

10.主要資材等

(1)主要資材を購入しようとする場合は、極力広島県内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし、予め購入先の名称所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
(2)当該工事に使用する砂については、海砂（県外産を含む）を使用しないこと
(3)この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主目的部分を除く）を第三者に譲り負けようとする場合は、原則として広島県内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする

II.建築改修工事仕様

1.図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」(令和4年版)」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。

図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和4年版））」以下、「標準仕様書」という。）。による。

2.特記仕様

(1)項目番号に○印のついたものを適用する
(2)特記事項は○印のついたものを適用する
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
○印と◎印のついた場合は共に適用する
(3)項目に記載〔〕内の表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
〔〕内の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと
(5)関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
(6)材料及び製造所の記載は随不同である

①一般共通事項

7.建設発生土

※場外指示の場所に処分 ・ 場外搬出適切な処理 ・ 场内指示の場所に散ぎ均し
・ 场内指示の場所に堆積
・ 当該工事により発生する建設発生土は、 次の公の開示する理立地に搬出すものとする

・ 搬出場所
※当該工事により発生する建設発生土は、「建設発生土処分先一覧表」に掲載されている施設のうちいずれかに搬出すものとする。また搬出し方としては、運搬者と受入費用（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的な建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地（一時待避庫を含む）を見込んでいる。したがって、正当なる理由がある場合を除き残土処分に要する費用は変更しない。なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の様式に関り難い場合は、監督職員と協議するものとする

材料・機材等の品質及び性能
本工事の建築物内部に使用される建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（１）から（４）を満たすものとする
(1)合板、木質系フローリング、構造物パネル、集成材、単板調離材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保護材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを含有しない又は発散量が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放数量」の区分に応じた材料を使用する
(2)接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する
(3)接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-pーテル及ビニルアルコール-2-エチルヘキシル等を含不有しない揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する
(4)(1)の材料を使用して作られた家具、装具、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを含有しないか、発散量が極めて少ない材料を使用したものとする

また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放数量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三項」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
①建築基準法施行令第20条の第7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外材料
②建築基準法施行令第20条の第7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20条の第7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④建築基準法施行令第20条の第7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
国等による環境物品等の調達推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする

材料・機材等の品質及び性能
(1)本工事に使用される材料は、設計図書に定める品質及び性能他、通常すべき品質及び性能を有するものとする
(2)備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。
(3)標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする
(4)本工事に使用される材料のうち、（５）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書等の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りではない
①品質及び性能に関する試験データを整備していること
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること
③安定的な供給が可能であることを
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
(5)製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル 防水材料
無収縮グラウト材 現場発泡断熱材
乾式保線材 フリーアクセスフロア
既成鋼合モルタル 可動間仕切
ルーフトレイン 移動間仕切
吸水調整材 トイレブース
アルミニウム製建具 煙突用成形ライニング材
銅製建具 天井点検口
銅製軽量建具 床点検口
ステンレス製建具 グレーチング
鋳前額 屋上緑化システム
クローザ類 トップライト
自動扉機構 エボキシ樹脂
自閉式吊り戸棚機構 ポリマーセメントモルタル
重量シャッター 既成鋼合目地材
軽重シャッター 錆殺製品た

標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による

調査範囲 ※外壁（庇、笠木共） ・ 屋根 ・ 図示
調査方法 ※テストハンマ－による打診及び目視 ・ 図示
外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数値（幅、長さ、面積）の調査を行う
屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数値（幅、長さ、面積）の調査を行う。
また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を活用して監督職員にご二部提出する（必要に応じて写真等を添付する）
補修方法 ※図示
補修範囲 ※図示

工事種目 技能検定期種 技能検定制業
仮設工事 とび作業 とび作業
防水改修工事 防水施工 アスファルト防水工事作業
ウレタンゴム系密着防水工事作業
アクリルゴム系密着防水工事作業
合成ゴムシート防水工事作業
塩化ビニルシート防水工事作業
セメント系防水工事作業
シーリング防水工事作業
改質アスファルトシートーテ工法防水工事作業
FRP防水工事作業

外壁改修工事 樹脂接着剤注入施工 樹脂接着剤注入工事作業
左官作業 タイル張り作業 左官作業
タイル張替え作業 タイル張替え作業

雑填改修工事 サツシ工務 ビル用サツシ工務作業
ガラス施工 ガラス工事作業 ガラス工事作業
自動車加工 自動車加工作業 自動車加工作業
ガラス用フィルム施工 建築フィルム作業

塗装改修工事 塗装 建築塗装作業
内装改修工事 タイル張り タイル張り作業
建築大工 大工工事作業 大工工事作業
建築板金 鋼製地下工事作業 鋼製地下工事作業
内外装板金作業 内外装板金作業
左官 プラステック系床仕上げ工事作業 プラステック系床仕上げ工事作業
カーペット系床仕上げ工事作業 カーペット系床仕上げ工事作業
ボード仕上げ工事作業 ボード仕上げ工事作業

換気 換気装置 換気装置

耐震改修工事 とび作業 とび作業
鉄筋施工 鉄筋組立作業 鉄筋組立作業
型枠施工 型枠工事作業 型枠工事作業
コンクリート圧送施工 コンクリート圧送工事作業 コンクリート圧送工事作業
鉄工 構造物鉄工作業 構造物鉄工作業

※技能士においては、積極的な活用を図ること。

①一般共通事項

14.化学物質の濃度測定 [1. 6. 9]

(1) 図示した室のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指標値以下であることを確認し、監督職員に報告する
測定箇所は仕上表により、施工方法は施工条件明示によるパッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う
① ３０分間換気
測定対象室のすべての窓及び扉（送り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する
② ５時間閉鎖
③ ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する
ただし、送り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする
④ 測定
イ ②の状態のまま測定する
ロ 測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時〜３時が測定時間帯の中央となろう、１０時３０分〜１８時３０分までの時間帯で測定する
ハ 測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする
⑤ 分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する
⑥ その他
監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること
(2) 木材の防腐・防蟻処理は、クロドリホス、ダイナソジン及びフェノカルプを含有しない薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行う十分な乾燥させた後現場に搬入する
(3) 保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散量が極めて少ないF☆☆☆☆等級のものとする
(4) 塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散量が極めて少ないF☆☆☆☆等級のものとする
(5) 屋内に面して用いる材料は、上記（２）〜（４）に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、（１）の規定を満たすこと

※行方（回数及び時期については監督職員の指示による） ・ 行わない

下記のことを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の作成は「蓄積工事写真作成要領」によるものとする
(1) 工事写真
工事の進捗に伴い工事全体的状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を隔別期別工事工程報告書に添付するものとする
(2) 工事中写真
水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及びその他監督職員が指示する箇所は、A4版写真台帳にまとめて完成検査日まで提出するものと
【提出部数】：１部
(3) 完成写真
【撮影箇所】 建物外觀各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所
【規格・提出部数】 ※ A4版クリアファイル ２部 ・ A4版写真台帳 部
【完成写真の撮影業者】 ・ 監督職員の承認する撮影業者
(4) その他の写真
隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工中の写真（カラー・キャベネ版）を監督職員の指示により提出するものとする
(5) 保管
工事写真のネガ・データは、受注者において工事完了後２年間保管すること

※提出を要する 完成図説：１部
竣工図の種類（※含む・・・）
竣工図の作成方法 （AD（CADデータの提出（※要・不要））
原因 ※普通

③

①

騒音・粉じん等の対策

騒音・粉じん等の対策
防音パネル ○ 防音シート
防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲
※ 工事に必要な範囲

〔2.1.3〕

②

足場等

〔2.2.1〕〔表2.2.1〕
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
外部足場 ○ 設置する（範囲 ※ 工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない
防護シート ○ 設置する（範囲 ※ 工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない
内部足場 ○ 設置する（※ 脚立、足増板等 ・ ） ・ 設置しない
材料、撤去材等の運搬方法 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
C種：利用可能なエレベーター（ ）
D種：利用可能な階段（ ）

③

既存部分の養生

〔2.3.1〕
養生方法等
・ 既存部分の養生方法 ※ ビニルシート、合板等による ・
・ 既存家具、既存設備等の養生方法 ※ ビニルシート等 ・
・ 既存ブラインド、カーテン等の養生方法 ※ ビニルシート等（取外し再取付を行う）
保管場所 ※ 構内既存施設内 ・
・ 固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動 ※ 行う（図示）
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

4

仮設間仕切り

〔2.3.2〕
仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※ 図示
仮設間仕切りの種別と材質等
・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示
A、B種の仕上げ材
※ せっこうボード（60・厚さ9.5mm） ・ 合板（普通合板 厚さ9mm）
A、B種の片面への塗装等 ※ 行わない ・ 行う（図示）
A種のグラスウールの充填
※ 行う（J I S A 6 3 0 1 グラスウール吸音材3 2 K厚5 0 mm）
・ 行わない
仮設扉の種別 ※ 木製（合板張り程度） ・

5

監督職員事務所等

〔2.4.1〕
・ 設ける m2程度 ※ 設けない
現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による

⑥

工事用水

構内既存の施設 ・ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ※ 利用できない

⑦

工事用電力

構内既存の施設 ・ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ※ 利用できない

⑧

仮囲い等の安全施設

別紙設計図による

⑨

工事現場の表示

現場の見やすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する
※ 工事名等の表示板（900mm×600mm） ・ 工事概要等の説明看板（900mm×600mm）

⑩

交通誘導員

※ 配置する ○ 配置しない
※ 大型車両進入時（ ）人／日 ・ 常時配置（ ）人／日
・ （ ）作業期間（ ）人／日

③

防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法
※ 改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による。
・

2 既存防水の処理
既存保護層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存防水層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・ 行う（ ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X）
・ 行わない

3 既存下地の処置
既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4) (9) (a) ①～③による ・
設備機器架台、配管受部、パラベット、貫通パイプ回り、手すり・丸壇の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する

4 アスファルト防水
〔3.3.2～5〕
屋根保護防水
防水層の種別
工法 種別 施工箇所 断熱材 絶縁用シート 立上り部の保護
・ P 2 A ・ A－1 ※ A－2 ・ A－3
・ B－1 ※ B－2 ・ B－3
・ P 1 B ・ A I－1 ※ A I－2 ・ A I－3
・ P 2 A I ・ A I－1 ※ A I－2 ・ A I－3
・ P 1 B I ・ B I－1 ※ B I－2 ・ B I－3
・ T 1 B I
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上
床タイル張り ※ 水下 60mm以上
乾式保護材
原系系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したものの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したものの。

（品質・性能）

分類・規格

寸法（mm）

寸法の許容差

出荷時の含水率

曲げ強さ・曲げモーメント（N・cm）

凍結融解完了時（試験サイクル数）

吸水率（％）

吸水による長さ変化率（％）

難燃性

耐凍結融解性能

耐衝撃性能

剛性（E×I）

（試験方法）

（1）寸法の測定方法

（2）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。（原系系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。

（3）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

（4）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

（5）吸水による長さ変化率率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで顕湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間を用いて140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さ測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔL）は、次式によって求める。
（ΔL）＝（L2－L1）／L1×100 ΔL：吸水による長さ変化率（％）
L1：乾燥時の標線間の長さ（mm） L2：吸水時の標線間の長さ（mm）

（6）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「原系系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（原系系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

（7）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2 対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（W1－1000）、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種類

工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考

・ M4C ・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4 ※ 製造所の指定による

・ M3D ・ D-1 ※ D-2 ・ D-3 ・ D-4 ※ 製造所の指定による

・ P0D1 ・ D1-1 ※ D1-2 ・ M4D1 ※ 製造所の指定による

JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材（種類）※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号（厚さ）※25mm・50mm

5 改質アスファルトシート防水

断気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・ 個
断気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・ 個
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示
屋内防水
工法 種別 施工場所 保護層
・ P 1 E ・ E－1 ・ 設ける
・ P 2 E ※ E－2 ・ 設けない
E－1の場合で工程3を行う部位（※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 ・ ）
押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋上排水溝 ・ 図示 ・
防水層の種類 〔3.4.2、3〕
工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ M4S ・ AS-T1 ・ ・ ※ 製造所の指定による
・ AS-T2
・ AS-J2
・ M3AS ・ AS-T3 ・ ・ 断気装置 ・ 設ける
・ POAS ・ AS-T4 ・ ・ 改修用ドレン ・ 設ける
・ AS-J1
・ AS-J3
・ M3ASI ・ ASI-T1 JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材（種類）※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号（厚さ）※25mm・50mm
・ M4ASI ・ ASI-J1 ※ 製造所の指定による
・ POASI
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
断気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・
断気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・ 個
押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
〔3.5.2～4〕〔表3.5.1～3〕
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ P0S ・ S-F1 ・ ・ ※ 製造所の指定による
・ S4S
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ S3S ・ S-F1 ・ ・ ※ 製造所の指定による
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ P0S1 ・ SI-F1 (材質) ※改修標準仕様書3.5.2 (a) (3) (ii)による（厚さ）※25mm・50mm
・ S3S1
・ S4S1
・ M4S1
・ SI-F2 (材質) ※改修標準仕様書3.5.2 (c) (3) (i)による（厚さ）※25mm・50mm
・ SI-M1
・ SI-M2
S1－F1、S1－F2、S1－M1及びS1－M2における防湿用フィルム
※ 設けない ・ 設ける
S1－M2の絶縁用シートの場合
※ 発泡ポリエチレンシート
S－M2及びS1－M2の立上り部の工法
※ 接着工法（立上りが面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法
屋内防水
防水層の種類
種別 施工箇所 平場のモルタル塗り 立上り部の保護モルタルの塗厚
・ S－C1 ・ ・ 床塗り ・ ※ 7mm以下 ・
・ 下地モルタル塗り

7 塗膜防水

〔3.6.2、3〕
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ P O X ※ X－1 ・ X－2 ※ 2成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ ※ 製造所の指定による ・ 断気装置 ・ 設ける ・ 設けない
・ L 4 X ・ X－1 ※ X－2 ・ ※ 製造所の指定による ・ 断気装置 ・ 設ける ・ 設けない
・ P 1 Y ※ Y－2
・ P 2 Y ※ Y－2
X－1（絶縁工法）の断気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・
X－1（絶縁工法）の断気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ 個
Y－1、Y－2の工程数及び各工程の使用量
※ 改修標準仕様書表3.6.2による ・ 主材料の製造所の仕様
シーリング改修工法の種類 〔3.7.2、3、3.7.7〕
・ シーリング充填工法
○ シーリング再充填工法
・ 抵觸シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法
ボンドブレイカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による
施工箇所 シーリング材の種類（記号）
外壁目地 P U－2
建具廻り・防水端部 M S－2
シーリング材表面に仕上塗料、塗装等 ※ 行う ・ 行わない
シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)～(2)による
接着試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験
といの材質 ・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ 〔3.8.2、3〕
ルーフドレン
種別 施工箇所
○ ろく度補修（○ 縦型 ・ 横型）
・ バルコニー用
・ バルコニー中継用
ルーフドレンの材質：
※ 本体等の鋼鉄品の種類は、JIS G 5501（わずき鋼鉄品）によるFG150又はFG200とし、張掛け幅は100mm以上とする。
とい受け金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔
※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの
多雪地域 ・ 適用する ・ 適用しない
防露材のホルムデヒド放散量
※ 規制対象外
鋼管製といの防露巻き ・ 適用する（工法：※ 標準仕様書表13.5.4による ・ ）
・ 適用しない
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示
鋼管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による
たてとい受金物の取付け ※ 図示
〔3.9.2、3〕
種類 ・ オープン形式（ ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形 ）
・ 板材折曲げ形（ ・ オープン形式 ・ シール形式）
本体幅（ ）mm 板厚（ ）mm
表面処理 種別（ ）種
色合等 ・ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）
既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ・
板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※ 図示 ・
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

8 シーリング

10 アルミニウム製笠木

防水改修フロー及び数量
・ 既存保護層の補修及び処置
防水面調査（施工数量調査）
ひび割れ部補修 欠損部改修 浮き部補修 ぜい弱部補修 既存目地欠損部補修 既存目地欠損部補修（脱気利用する場合）
アスファルト防水工事用シール材（幅2mm未満） Uカットのうえポリウレタン系シーリング材（幅2mm以上） ポリマーセメントモルタル補修 ポリマーセメントモルタル補修 撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修 ケレン等のうえ、ポリマーセメンペースト補修 アスファルト防水工事用シール材 ポリマーセメントモルタル補修 既存目地撤去のうえポリウレタン系シーリング材
0m 0m 0m 0m2 0m2 0m2 0m 0m 0m
シーリング改修
シーリング再充填工法
mm×mm 0m mm×mm 0m
縮尺 NS
図面番号

美しく輝く 里山共生都市

令和7年度

東城市民住宅1号棟外壁・手すり改修工事

工事名称

図面番号

2

4-1

外壁改修工事（共通事項）

2

ポリマーセメントスラリー

3

吸水調整材

4

既製調合モルタル

(品質・性能)

[4. 2. 2]

項目品質・性能
だれ下がり量 (mm)5以内
表面の状態ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ (N/mm²)6.0以上
圧縮強さ (N/mm²)20.0以上
接着強さ (N/mm²)1.0以上
標準条件
特殊条件湿度時0.8以上
低湿時0.5以上
透水性裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
2) 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

(品質・性能)

[4. 2. 2]

広がり速度長さ変化率引張強度曲げ性能吸水性耐久性
(cm/s)(%) (N/mm²) (N/mm²) (%) (N/mm²)
3以上3以下0.5以上5.0以上15以下5.0以上
保水係数0.35～0.55
粘弾係数0.50～1.00

改修標準仕様書表4.2.2による

[4. 2. 2]

(品質・性能)

[4. 2. 2]

項目品質・性能項目品質・性能
保水率70.0%以上長さ変化率0.2%以下
単位容積質量1.80kg/L以上曲げ強さ0.4N/mm²以上
接着強さ標準時0.6N/mm²以上
温冷繰り返し後0.4N/mm²以上

(試験方法)

⑴ 試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準繰り上り量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。

繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。
⑵ 保水率の試験方法
JIS R3202「フロートガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5Aろ紙（直径110cm）のをせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、⑴）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さ÷ノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて式次により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内经 mm
⑶ 単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
⑷ 接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研削した後、水湿しを行い直ちに⑴）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さをエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てφ10.6N/mm²以上を確保していること）
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研削した後、水湿しを行い直ちに⑴）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
⑸ 接着強さ（湿冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々⑷）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（湿冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11湿冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸させた後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。
（湿冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々湿冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てφ0.4N/mm²以上を確保していること）
⑹ 長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化粉形末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
⑺ 曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さに準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10％とする。

4-2

外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

ひび割れ部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 3. 5]

※ 樹脂注入工法
工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0.3以上0.5未満 200～300 ※40 ・
0.5以上1.0未満 ※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130 ・
エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形
注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う
コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個
コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ リカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂

欠損部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 3. 7]

※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m²/箇所程度以下の場合）
充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル代替え工法
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・

ひび割れ部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 5～7]

※ モルタルを撤去しないで改修
※ 樹脂注入工法
工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0.3以上0.5未満 200～300 ※40 ・
0.5以上1.0未満 ※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130 ・
エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形
注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う
コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個
コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ リカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
・ モルタルを撤去して改修
モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による

欠損部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 8、9]

※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m²/箇所程度以下の場合）
充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル代替え工法
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・

浮き部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 10～15]

※ モルタルを撤去しないで改修
・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm

外壁複合改修構工法

平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4-3

外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

ひび割れ部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 5～7]

※ モルタルを撤去しないで改修
※ 樹脂注入工法
工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (mL/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0.3以上0.5未満 200～300 ※40 ・
0.5以上1.0未満 ※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130 ・
エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形
注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う
コア採取の場合の個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個
コア採取の場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ リカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ

18

合成樹脂塗床

[6. 1. 0. 2、3]				
種別	施工箇所	工法	仕上げの種類	
・ 厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・ つや消し仕上げ	・ 防滑仕上げ
・ 厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・ 薄膜流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ	
・ 薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ	

塗料のホルムルデヒド放散量 ※規制対象外

19

断じ用塗床

材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする

工法 製造所の指定する工法とする

なお、上塗りは2回塗りとし、総塗布量は0. 25 kg/m²以上とする

仕上げの種類 (※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ) (※ 標準色 ・)

JIS K 5970に基づく塗料のホルムルデヒド放散量 ※ 規制対象外

20

フローリング張り

[6. 1. 1. 2～6]				
種類	工法	樹種	厚さ (mm)	間伐材等の適用
・ フローリング ボード1等	・ 釘留め工法 (根本張り) ・ 釘留め工法 (直張り)	※ なら ・	15	・
・ フローリング ブロック1等	・ 接着工法	※ なら ・	8	・
	・ 接着工法	※ なら ・	15	・

フローリングボードの大きさ ※改修標準仕様書表6.11.1、3、5による

種類	工法	樹種	種別	厚さ (mm)	間伐材等の適用
・ 天然木材化粧合板 フローリング	・ 釘留め工法 (根本張り) ・ 釘留め工法 (直張り)	※ なら ・	・ A種 ・ B種	・ 15 ・ 12	・
	・ 接着工法	※ なら ・	※ C種 ・ A種 ・ B種	・ 12 ・ 12 ・ 12	・

フローリングボードの大きさ ※改修標準仕様書表6.11.2、4、6による

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外

接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート

現場塗装仕上げ ・ 行う

※ ウレタン樹脂ワニス塗り

・ オイルステインの上、ワックス塗り

・ 生地のままワックス塗り

・ 行わない

21

畳敷き

[6. 1. 2. 2]				
種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ※D種 (畳表: ・ KT-I ・ KT-II ※KT-III ・ KT-K ・ KT-N)				
下地の種類 標準仕様書表12.6.1による床組				
・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロンの)				

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

22

せっこうボードその他ボード及び合板張り

種 類	JISの記号	厚さ (mm) ・ 規格等
・ 硬質木毛セメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 中質木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30 ・
・ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2 (無石綿) ・ 6 ・ 8
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ スラットタイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・) ・ 凹凸タイプ (・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃) ・)
・ ロックウール吸音ボード1号	DR-B	・ 25 ・
・ グラスウール吸音ボード32K	GR-B	・ 25 (ガラスクロス包)
・ せっこうボード	GB-R	※ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)
・ シーリングせっこうボード	GB-S	12.5 (※不燃 ・ 準不燃)
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5
・ 化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・ 柱目 板目) 専用下地材有り
・ 化粧せっこうボード (トラバーチン模様)	GB-D	9.5 (準不燃)
・ 普通合板		表板の樹種名 生地、透明塗料塗り (※ ラウン程度 ・) 不透明塗料塗り (※ しな程度 ・) 板面の品質 () 厚さ (mm) () 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)
・ 天然木材化粧合板		樹種名 () 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) () 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)
・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 (・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装) 表面性能 () タイプ 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) () 防虫処理 (・ 行う ・ 行わない)
・ メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ (※ 1.2 ・)
・ ポリエステル樹脂化粧板		
・ ミディアムデンシティ ファイバーボード	WDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・
・ 単板張り パーティクルボード		・ 無研磨板 V N ・ 研磨板 V S ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

23

壁紙張り

・ 化粧パーティクルボード G		・ 単板オーバーレイ D V ・ プラスチックオーバーレイ D O ・ 塗装 D C ・ 10 (難燃) ・ 12 (難燃) ・
・ ハードボード (素地) G	HB	・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード R N) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード R S)
・ ハードボード (化粧) G		・ 内装用 D I ・ 外装用 D E ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・
・ インシュレーションボード	1B	A級 (・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

せっこうボード等の下地は図示による。

軽量鉄骨下地ボード造音壁に用いる造音シール材

※ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド

合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外

合板類の張付け ※ B種 ・ A種

せっこうボードの目地工法 ・ 仕上表による

24

モルタル塗り

[6. 1. 4. 2. 3]						
ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外		防火性能				
施工箇所	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	備考
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃

モルタル・プラスター面の下地調整の種別 ※ R0種

コンクリート面の下地調整の種別 ※ R0種

せっこうボード面の下地調整の種別 ※ R0種

25

タイル張り

[6. 1. 6. 2～4]									
伸縮調整目地の位置 床タイル (※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・) 床タイル以外 (※ 図示 ・) ・ セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り									
施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐汚害性	耐滑	備考
			1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類
			・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・

耐滑り性: JIS A 1509-12 (セラミックタイル試験方法-第12節: 耐滑り性試験方法) で規定する C. S. R値は0.4～1.0とする。

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・ 行う ※ 行わない

見本焼き ・ 行う ・ 行わない

既調合モルタル

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

(品質・性能)

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.2%以下
単位容積質量	1.80 kg/L以上	曲げ強さ	0.4N/mm2以上
接着強さ	標準時 0.6N/mm2以上 温冷繰り返し後 0.4N/mm2以上		

(試験方法)

(1) 試料の調製

製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。

練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。

(2) 保水率の試験方法

JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス (縦150mm、横150mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5 Aろ紙 (直径110mm) をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰め込む。

その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。

試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率＝50÷平均値×100 (注) 50: リング型わくの内径 mm

(3) 単位容積質量の試験方法

JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

26

セルフレベリング材塗り

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・ 行う ※ 行わない

見本焼き ・ 行う ・ 行わない

有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外

27

塗装改修工事

① 材料	屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量	[7. 1. 3]
② 下地調整	※ 規制対象外 防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・ 次の箇所を除き防火材料とする (・) 塗替え種別がR種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※ 塗替え面積の30%	[7. 2. 1～7]

下地面の種別	下地調整の種別	ひび割れ部の補修
	塗替え	新規
木部	※ R種 ・	・ R種 ・ R種
鉄鋼面	※ R種 ・	・ R種
亜鉛めっき鋼面	※ R種 ・	・ R種
亜鉛めっき鋼面 (鋼製建具等)	※ R種 ・	・ R種
モルタル面、プラスチック面 (鋼製建具以外)	※ R種 ・	・ R種
コンクリート面 (D種以外)	※ R種 ・	・ R種
ALCパネル面		
押出成形セメント板面	・ R種 ・ R種	・ R種 ・ R種
コンクリート面 (D種)	・ R種 ・ R種	・ R種
せっこうボード面、その他ボード面	※ R種 ・	・ R種 ・ R種

28

耐震改修工事

(4) 接着強さ (標準時) の試験方法

イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合

(試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付けする。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「50角ユニットタイル (外の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法) JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。(全てが0.6N/mm2以上を確保していること)

ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合

(試験体の作製) JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1) で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施すの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿潤養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法) 「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

(5) 接着強さ (温冷繰り返し後) の試験方法

(試験体の作製) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ (標準時) の試験方法の「試験体」と同様とする。

(温冷繰り返し試験) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰り返し試験に準じて行う。

試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。

(温冷繰り返し後の接着強さ試験方法) 「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰り返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。(全てが0.4N/mm2以上を確保していること)

(6) 長さ変化率の試験方法

JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスペーション及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。

(7) 曲げ強さの試験方法

JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11曲げ強さ試験に準ずる。

試験室の状態: 試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

29

環境配慮改修工事

1 石綿含有建材の除去工事	施工調査	※ 石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貨与する設計図書等により石綿を含有している吹付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。 調査範囲 (・ ・ 図示) 貨与資料 (・)	[9. 1. 1、3～5]
---------------	------	---	-----------------

・ 分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソファイト、クリノタイル、クロソライト、トレモライト

分析方法

材料名	分析方法 (定性)	分析方法 (定量)
	JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所

材料が仕上塗材の場合は、上記の分析を行うこと

サンプル数 1箇所あたり3サンプル

採取箇所 ・ 図示

・ アスベスト粉じん濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定1	処理作業前	処理作業室内	・ 計 点
・	測定2		調査対象室外部の付近	・ 計 点
・	測定3	処理作業中	処理作業室内	・ 計 点
※	測定4		セキュリティゾーン入口	・ 計 点
※	測定5		集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・ 計 点
※	測定6		処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界	・ 計 点
※	測定7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・ 計 点
・	測定8	処理作業後 (シート養生後 1週間以降)	処理作業室内	・ 計 点
・	測定9		調査対象室外部の付近	・ 計 点

30

図面名称

図面名称	建築改修工事特記仕様書 (4)	図面番号
縮 尺	NS	4

31

工事名称

美しく輝く 里山共生都市

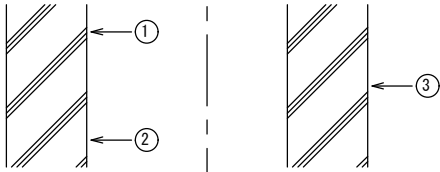
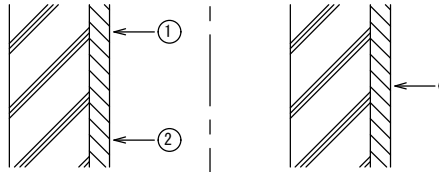
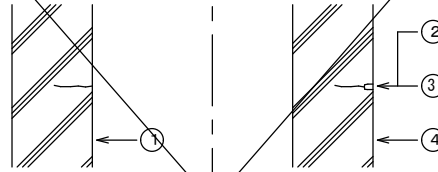
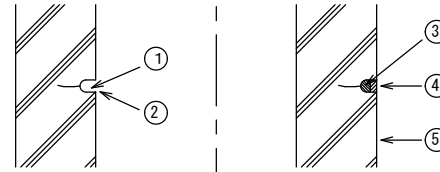
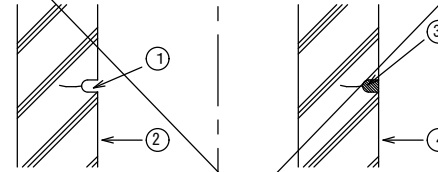
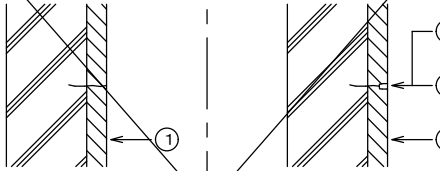
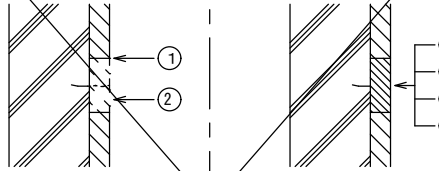
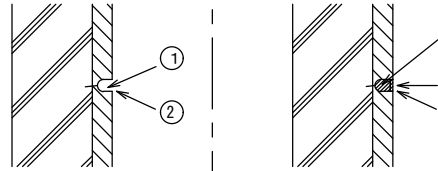
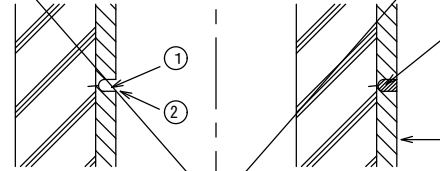
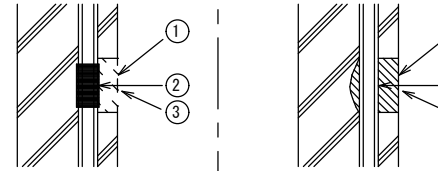
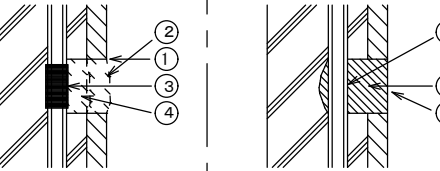
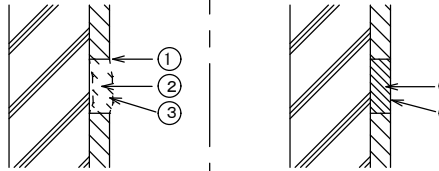
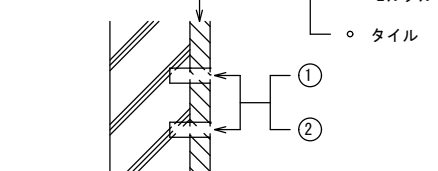
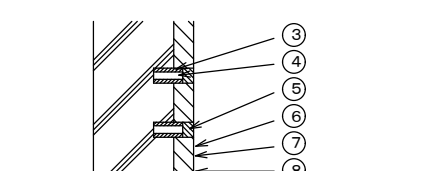
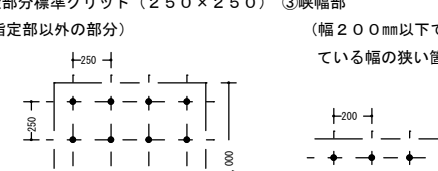
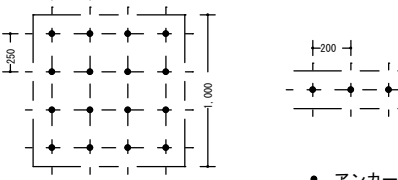
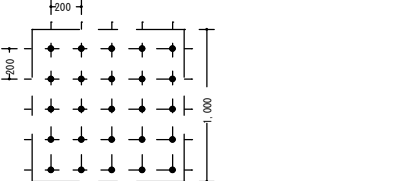
令和7年度

東城市民住宅1号棟外壁・手すり改修工事

32

図面名称

図面名称	建築改修工事特記仕様書 (4)	図面番号
縮 尺	NS	4

名 称		A 表面劣化部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理	
記号・仕様		A-1 打放し面表面劣化部処理〔サンダー工法〕		A-2 モルタル面表面劣化部処理〔サンダー工法〕		B-1 打放し面樹脂注入工法〔標仕4. 3. 4〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		B-2 打放し面Uカットシール材充てん工法〔標仕4. 3. 5（1）〕 ひび割れ幅 1. 0mm以上		B-3 打放し面Uカットシール材充てん工法〔標仕4. 3. 5（1）〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm	
改修前	改修後										
工 程		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面 ・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度）		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面 ・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度）		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合は、①、④の工程はA-1工法に含む。		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合は、②⑤の工程はA-1工法に含む。		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合は、②④の工程はA-1工法に含む。	
名 称		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		B ひび割れ部処理		C 錆鉄筋部処理	
記号・仕様		B-4 モルタル面樹脂注入工法〔共仕4. 4. 5〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		B-5 モルタル面躯体部樹脂注入工法〔標仕4. 4. 5〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		B-6 モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅 1. 0mm以上		B-7 モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		C-1 打放し面錆鉄筋部処理	
改修前	改修後										
工 程		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、①、④の工程はA-2工法に含む。 参考数量： ひび割れ幅 0. 2～0. 5mm（ ） ひび割れ幅 0. 5～1. 0mm（ ） （ ）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、⑥の工程はA-2工法に含む。		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、②⑤の工程はA-2工法に含む。		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、②④の工程はA-2工法に含む。		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、③⑥の工程はA-2工法に含む。	
名 称		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理		D 浮き部処理	
記号・仕様		C-2 モルタル面錆鉄筋部処理		D-1 モルタル面はつり		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		D-2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 D-2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	
改修前	改修後										
工 程		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、④⑦の工程はA-2工法に含む。		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、③⑤の工程はA-2工法に含む。		①穿孔 ②孔内エアークリーニング ③エポキシ樹脂注入 ④ステンレスピン挿入 一般部 指定部 一般部 指定部 一般部 指定部 一般部 指定部		⑤穿孔跡埋戻し〔パテ状エポキシ樹脂〕 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA-2工法に含む。		①一般部分標準グリッド（250×250） ③狭幅部（幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）  ②指定部分標準グリッド（200×200）（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）  アンカーピン固定部	
		 美しく輝く 里山共生都市 庄 原 市		令和7年度		工事名称 東城市民住宅1号棟外壁・手すり改修工事		図面名称 外壁改修工事特記仕様書（1）		図面番号 6	
		縮 尺		NS							

名 称		D 浮き部処理												
記号・仕様		D-6 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 14]		D-6' タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 5. 13]										
改修前	改修後													
		工 程		①ピン固定部穿孔 一般部 指定部 ②孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 指定部 ④エポキシ樹脂注入 一般部 指定部		⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 指定部 ⑥注入口穿孔 一般部 指定部 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ⑧エポキシ樹脂注入 一般部 指定部		⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 指定部 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ） ⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峽幅部：			③峽幅部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所） ● 注入口付アンカーピン固定部 ○ 注入口			
名 称		D 浮き部処理												
記号・仕様		D-7 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 4. 15]		D-7' タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 5. 14]		D-8 タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上） [標仕4. 5. 15]								
改修前	改修後													
		工 程		①ピン固定部穿孔 一般部 指定部 ②孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 指定部 ④ポリマーセメントスラリー注入 一般部 指定部 ⑤穿孔跡埋戻し [※ポリマーセメントスラリー] 一般部 指定部		⑥注入口穿孔 一般部 指定部 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ⑧ポリマーセメントスラリー注入 一般部 指定部 ⑨穿孔跡埋戻し [※ポリマーセメントスラリー] 一般部 指定部 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ）		⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峽幅部：			①穿孔 ②孔内エアークリーニング ③ステンレスピン（注入口付）挿入 ④エポキシ樹脂注入 ⑤穿孔跡埋戻し [化粧キャップもしくは調色樹脂パテ] 参考数量：			
名 称		E 欠損部処理												
記号・仕様		E-1 打放し面充填工法 [標仕4. 3. 7]		E-2 打放し面欠損部処理 [標仕4. 3. 3]		E-3 モルタル面欠損部処理 [標仕4. 4. 3]		F 外壁複合改修工法			F 外壁複合改修工法			
改修前	改修後													
		工 程		①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ） ③欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む		①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形 ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ） ④防錆処理 ⑤欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法に含む		①カッター縁切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄（150～200kg/cm ² ） ④欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） （鉄筋の露出部がある場合はE-2による） ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む		下地補修後 ①プライマー下塗り ②ポリマーペースト中塗り ③三軸ネット張り ④ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ポリマーペースト中塗り ⑥アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0 ステンレスビス止@450） ⑦シーリング打設（MS-2）				

		美しく輝く 里山共生都市 庄 原 市	令和7年度	工事名称 東城市民住宅1号棟外壁・手すり改修工事	図面名称 外壁改修工事特記仕様書(2)	図面番号 7
					縮 尺 NS	

A. 外壁 改修	符号	部 位	改 修 前	外壁改修（補修）																		改 修 後			備 考				
				A. 表面劣化部処理				B. ひび割れ部処理			C. 錆鉄筋部処理			D. 浮部処理												E. 欠損部処理			
				A-1" (打放し)	A-1' (打放し)	A-2" (貼付)	A-2' (防水 砂貼)	B-2 (打放し)	B-6 (貼付)		C-1 (打放し)	C-2 (貼付)		D-1 (はつり)	D-1 (はつり剥)	D-1 (狭幅部)	D-1 (狭幅部 はつり剥)	D-2 (注 入一般部)	D-2 (注 入指定部)	D-2 (注 入狭幅部)		E-1 (打放し)	E-2 (打放し)	E-3 (貼付)					
			下 地	仕 上																					仕 上				
住 宅	①	根廻り	C	コンクリート打放し面補修		○			○			○									○	○				①	下地処理 高圧洗浄	水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料塗	150～200kg/ c㎡（高圧水洗浄）
	②	外壁	M	リシン吹付			○			○		○									○	○				②	旧仕上塗膜の除去	防水形複層塗材 E	
	③	パラペット・バルコニー・庇見付	M	リシン吹付			○			○		○									○	○				③	〃	防水形複層塗材 E	
	④	パラペット天端	C	コンクリート打放し		○			○			○									○	○				④	下地処理 高圧洗浄	エポキシ系ポリマーセメント塗布 ウレタンゴム系塗膜防水 (X-2)	下地調整樹脂モルタル塗布
	⑤	庇揚裏・パラペット揚裏	C	リシン吹付	○				○			○									○	○				⑤	旧仕上塗膜の除去	外装薄塗材 S i	
	⑥	庇天端	C	モルタル金コテ仕上				○					○		○		○		○					○		⑥	下地処理 高圧洗浄	ポリマーセメント系塗膜防水材塗	
	⑦	バルコニー床	C	防水モルタル				○																		⑦	下地処理 高圧洗浄	ポリマーセメント系塗膜防水材塗(ノンスリップ仕様)	
	⑧	バルコニー揚裏	C	リシン吹付	○				○			○									○	○				⑧	旧仕上塗膜の除去	外装薄塗材 S i	
	⑨	バルコニー天端笠木	C	コンクリート打放し	○				○			○									○	○				⑨	下地処理 高圧洗浄	ポリマーセメント系塗膜防水材塗(ノンスリップ仕様)	
	⑩	窓台	C	モルタル金コテ仕上				○		○			○					○						○		⑩	下地処理 高圧洗浄	ポリマーセメント系塗膜防水材塗	
	⑪	庇側面	C	モルタル金コテ仕上																						⑪		70カビ`ンシグ`イグ` 杉注入	

B. 屋上防水改修他

部 位	備 考
屋 上	既存シート防水撤去・ケレン・清掃 下地調整エポキシ系ポリマーセメント塗布 ウレタン塗膜防水 (X-2) (パ`ラベ`ット立上り・天端) 高圧水洗浄の上、ウレタン塗膜防水 (X-1) (平場) 脱気装置：新設(種類及び設置数量は、主材の製造所の仕様による) 高圧水洗浄の上、ウレタン塗膜防水 (X-2) (側溝部) 既設ドレン撤去、改修用ドレン 縦型φ100用：新設 立上り入隅補強金物 (W=30) 溝補強金物 (W=30)
床面立上	既存設備通気管 φ70 (H=190) ×12 高圧水洗浄の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)

C. 外部建具改修	アルミサッシ：既存のまま 建具周囲シーリング打替再充填 （変成シリコン10×10） スチール建具：下地調整 (RB種) の上 DP 塗替 外表面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共）
D. その他 （耐候性塗料の仕様）	鉄鋼面及び亜鉛めっき面の種別はB種，上塗りの等級は3級 コンクリート・押出成形セメント板の種別はC－1種（塩化ビニル面に 準用する）

特 記 事 項					
縦樋・排水管	既存支持金物：下地処理の上 DP 塗替	シーリング	ヨコ目地：打替再充填	PU－2	バルコニー物干金物 下地処理の上 DP 塗替
	既存縦樋：下地処理の上 DP 塗替		タテ目地：打替再充填	PU－2	空調室外機 移設・復旧
	既存縦樋：下地処理の上 DP 塗替		建具廻り：打替再充填	MS－2	パラボラアンテナ 移設・復旧
			金物取合（手摺端部等）：打替再充填	MS－2	
防水形複層塗材E	凹凸模様	設備盤・配管等	鉄部：下地処理の上 DP 塗替		
複層塗材 S i	凹凸模様	屋上点検口・タラップ	鉄部：下地処理の上 DP 塗替		
外装薄塗材 S i	砂壁状	バルコニー手摺	既設スチール製を撤去後アルミ製に取り替え		
ポリマーセメント系塗膜防水	ポリマーセメント系塗膜防水工事施工指針（案）PA－1仕様				
水性シリコン フッ素系浸透性吸水防止塗料	日本ペイント 水性シリコン浸透ガード 同等	バルコニー隔板	既設を撤去後 新設		

凡 例			
M	モルタル	DP	耐候性塗料
C	コンクリート	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料
VP	硬質塩化ビニル管	PU－2	ポリウレタン（2成分形）
SUS	ステンレス	MS－2	変形シリコン（2成分形）
		VE	塩化ビニル樹脂エナメル 2回塗（半つや）

工事場所

付近見取図

※この付近見取図は、国土地理院の地図（地理院地図）を使用して作成したものである

東城駅方面

建物概要

工事名称	東城市民住宅 1号棟外壁改修工事							
工事場所	庄原市東城町川西865番地2							
建物規模	1号棟：鉄筋コンクリート造 5階建て（一部塔屋2階建て） 2号棟：鉄筋コンクリート造 5階建て（一部塔屋有り）							
面積表	1階	2階	3階	4階	5階	塔屋1階	塔屋2階	合計(延べ面積)
床面積(㎡)	1号棟	376.00	359.92	359.92	359.92	10.32	14.029	1,840.029 →1,840.03
	2号棟	371.98	359.92	359.92	359.92	2.40	—	1,814.06
建築面積(㎡)	1号棟=383.168→383.17				2号棟=378.14			

内部仕上表（抜粋）

室名		床	巾木	腰壁	壁	天井		
						一般階	最上階	
玄関	W		防水モルタル塗（石継り板厚5下地）	合板厚9張OP一部塗装板	合板厚9張OP一部塗装板		石膏ボード厚9目造し強EPII	
	C	モルタル打の上防水モルタル塗	防水モルタル塗	モルタル塗EPI	モルタル塗EPI	パネミキライト吹付		
台所兼食室	W	合板フローア厚12張					石膏ボード厚9目造し強EPII	
	C		木製H55OP	モルタル塗VP	モルタル塗VP	パネミキライト吹付		
便所	W	防水モルタル塗H5EPI（石継り板厚5下地）		石継りパネ板厚9EPI一部塗装板	石継りパネ板厚9EPI一部塗装板		石膏ボード厚9目造し強EPII	
	C	モルタル打の上合成樹脂塗床EPI（色分付）		モルタル塗EPI	モルタル塗EPI	パネミキライト吹付		
浴室	W							
	C	70mm防水の上/防水下地防水モルタル塗	70mm防水の上/防水下地防水モルタル塗	防水モルタル塗VP	防水モルタル塗VP	パネミキライト吹付	アクリルリシン吹付	
洗面所	W	合板フローア厚12張		木製H55OP		石膏ボード厚9目造し強EPII	石膏ボード厚9目造し強EPII	
	C		木製H55OP	モルタル塗VP	モルタル塗VP			
階段室	W							
	C	防水モルタル塗（床込、隅巻、扉巻）	防水モルタル塗H200	モルタル塗（手摺、腰共）VP	モルタル塗アクリルリシン吹付	アクリルリシン吹付	アクリルリシン吹付	
管理人室	W	合板フローア厚12張						
	C		木製H55OP	モルタル塗EPI	モルタル塗EPI		石膏ボード厚9目造し強EPII	
倉庫	W							
	C	金網掛え	打放し	打放し	打放し		木毛材/板厚25（打込み）	
点検口	W							
	C	防水モルタル塗	モルタル塗	モルタル塗	モルタル塗		打放し	
凡例	W：木下地 EPI：合成樹脂エマルジョンペイント1種 OP：合成樹脂調合ペイント OSV：オイルステインワニス C：コンクリート下地 EPII：合成樹脂エマルジョンペイント2種 VP：塩化ビニル樹脂エナメル							

外部仕上表（抜粋）

外壁	コンクリート下地モルタル刷毛引きアクリルリシン吹付 （妻壁：目地切(W18)、目地底：防水モルタル塗）
外壁腰	コンクリート打放し（1階パルコエを除きH900） 階段室袖壁：モルタル塗 管理人室及び倉庫側面洗い場：モルタル塗H900

プロパンボンベ庫

1号棟用自転車置場

2号棟用自転車置場

集会所

自転車置場

2号棟2DK型5階建40戸

ゴミ置場

受水槽

自転車置場

1号棟2DK型5階建40戸

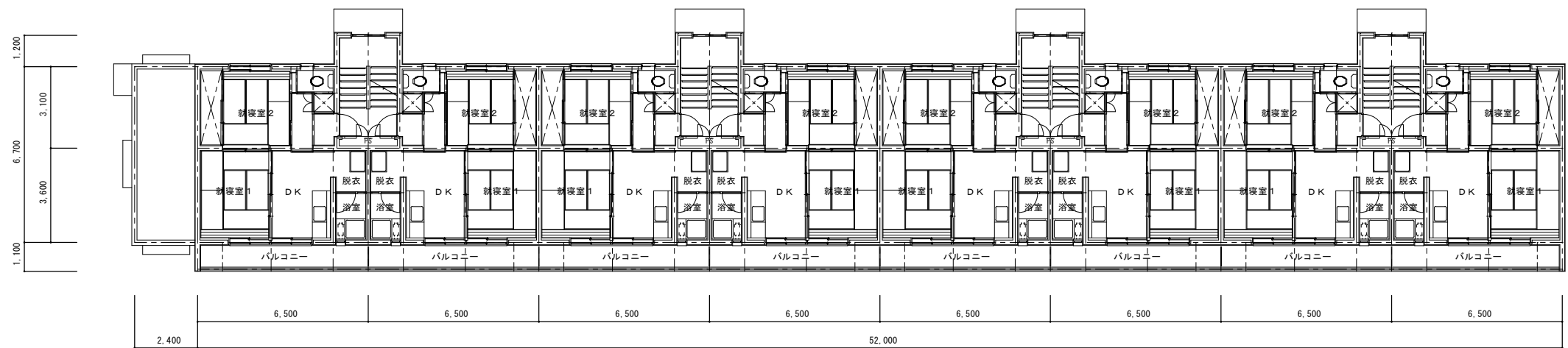
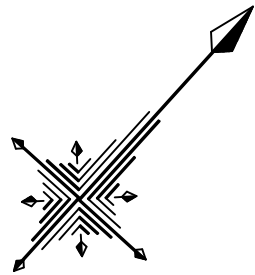
芝生

南面外壁改修工事

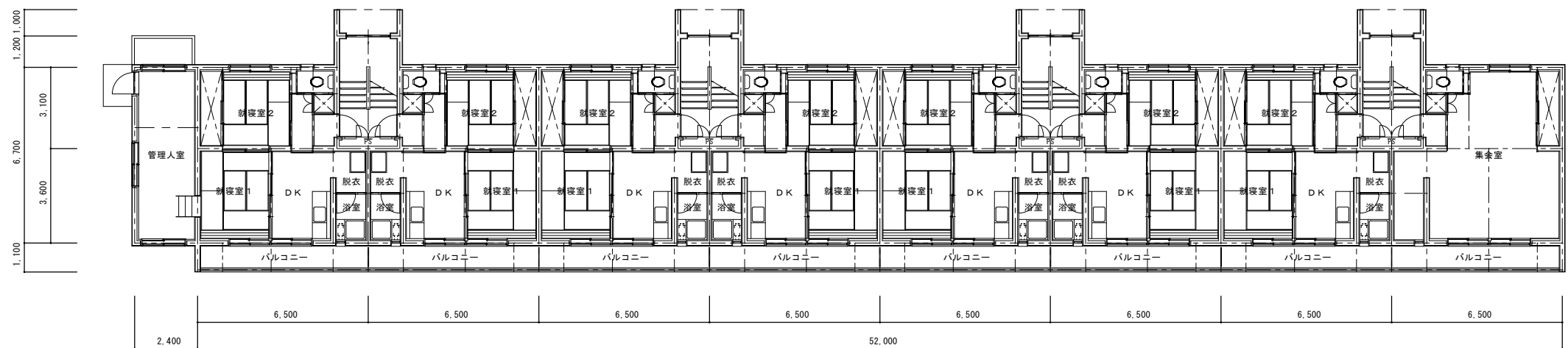
施設配置図

S=1/250

	庄原市	美しく輝く 里山共生都市	令和7年度	工事名称	東城市民住宅 1号棟外壁・手すり改修工事	図面名称	付近見取図	施設配置図	図面番号
		庄原市				縮尺	1：250		9



1号棟 2～5階平面図 S=1/150



1号棟 1階平面図 S=1/150



美しく輝く 里山共生都市
庄原市

令和7年度

工事名称

東城市民住宅 1号棟外壁・手すり改修工事

図面名称

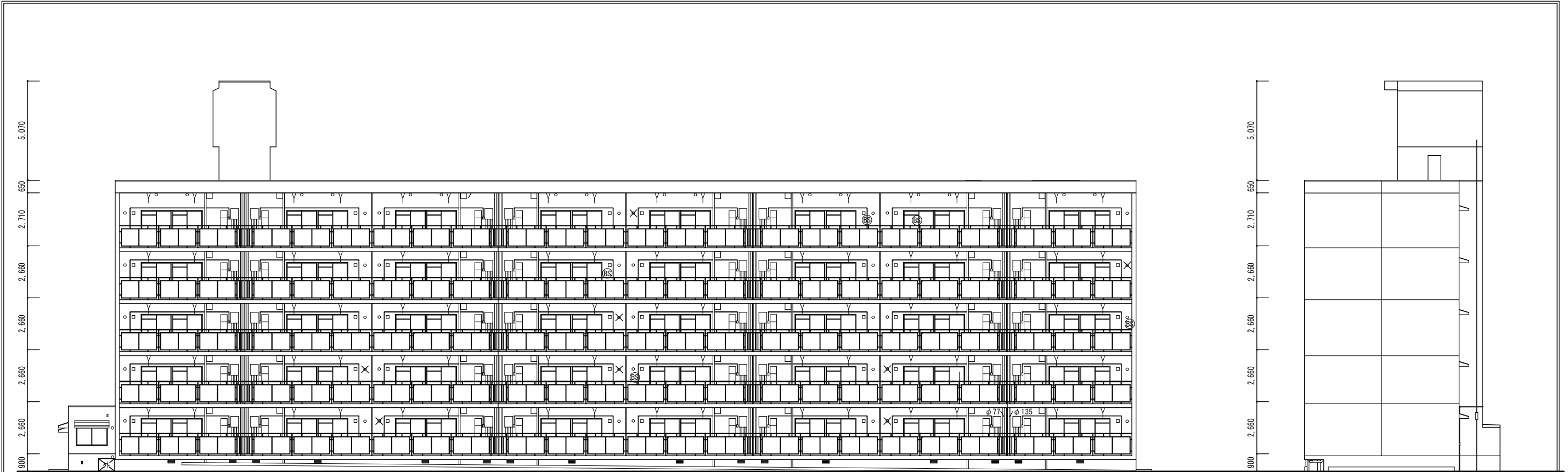
平面図

縮尺

1:150

図面番号

10



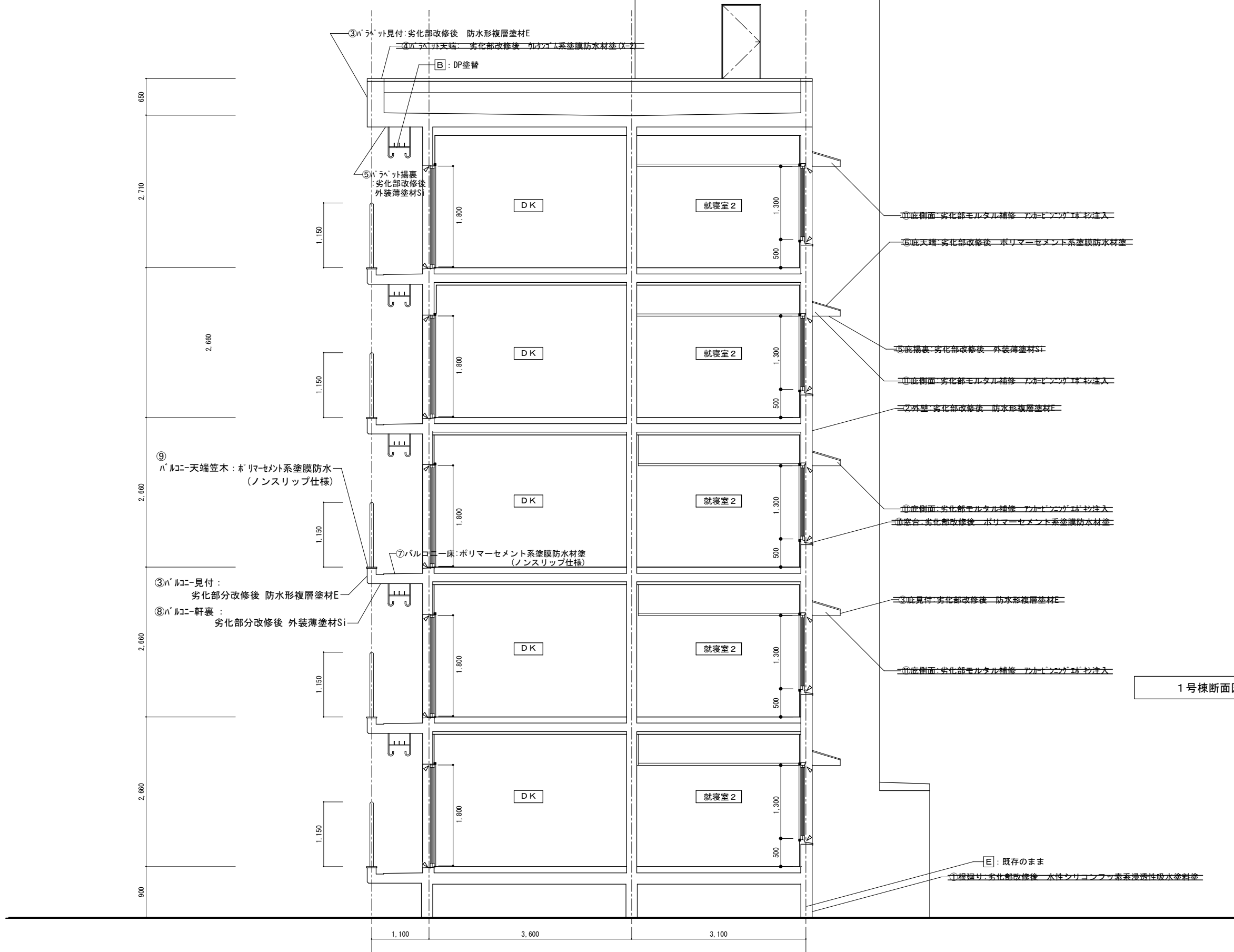
南東側立面図 S=1:150

北東側立面図 S=1:150



北西側立面図 S=1:150

南西側立面図 S=1:150



1号棟断面図 S=1/150

窓廻り・バルコニー廻り詳細図

1:20

③ バラベット見付
：劣化部処理後
防水形複層塗材 E

② 外壁：劣化部処理後
防水形複層塗材 E

⑥ 底天端：劣化部分改修後
ポリマーセメント系塗膜防水

⑤ 底裏：外装薄塗材 Si

⑩ 窓台：ポリマーセメント系塗膜防水

② 外壁：劣化部分改修後 防水形複層塗材 E

⑦ 床：ポリマーセメント系
塗膜防水ノンスリップ仕様

⑧ 外装薄塗材 Si：バルコニー軒裏

② 外壁：劣化部分改修後 防水形複層塗材 E

③ 詳細③ 1:20

① 詳細①

② 詳細②

① 詳細① 1:5

② 詳細② 1:5

シーリング打替

既存シート防水撤去・ケレン・清掃
下地調整エポキシ系ポリマーセメント塗布
ウレタン塗膜防水X-2 (特定化学物質無配合)

高圧水洗浄
ウレタン塗膜防水X-1 (特定化学物質無配合)

補強金物W=30

外壁仕上材

底天端仕上材

底裏仕上材

手摺支柱
<バルコニー立上り躯体補修：5箇所>

ポリマーセメント系塗膜防水塗

ポリマーセメントモルタルで
欠損部分を充填

防錆塗装

既存 (露出) グレートケレン

シーリング充填
(PU-2 30×10)

バルコニー見付：
防水形複層塗材 E

外装薄塗材 Si：バルコニー軒裏

外壁：劣化部分改修後 防水形複層塗材 E

400

860

340

12

10

20

40

340

110

25

150

890

95

30

205

80

65

90

980

25

A

クーラースリーブ

1:5

場所

南面

数量

8 2 箇所 (内取替 2 ヶ所)

仕上

樹脂製 清掃 (破損箇所：撤去新設)

清掃 (破損箇所：撤去新設)

135 φ

85

135 φ

85 φ

3

50

107 φ

ネジ可動式

ゴムパッキン

外部創内蓋

外部創枠

107 φ

仕様	材質	適用パイプ	色
外部用	ABS樹脂	VU-100特 (107×114)	シルバーホワイト

B

物干金物

1:30

場所

バルコニー

数量

6 4 箇所 1 6 箇所 (最上階)

仕上

DP塗替

取付プレートL=500 W=40

φ13

520 (660)

400

175

520 (660)

※ () 内は最上階寸法。

C

隔板

1:30

場所

バルコニー

数量

3 5 箇所

仕上

φ16

1,950

80

725

70

ポール φ50

アルミ

D

手摺

1:40

場所

バルコニー

数量

8戸分×5箇所

仕上

W≦1,300

W≦1,300

400

手摺梁図 S=1/10

W≦1,150

E

床下換気口

1:20

場所

南・北面

数量

既存のまま

仕上

ステンレス製

400

200

200

F

換気ガラリ

1:20

場所

南・北面

数量

1 2 0 箇所 (破損箇所：1 箇所)

仕上

樹脂製：清掃 (破損箇所：撤去新設)

150

130

130

美しく輝く 里山共生都市

庄原市

令和7年度

東城市民住宅1号棟外壁・手すり改修工事

工事名称

図面名称

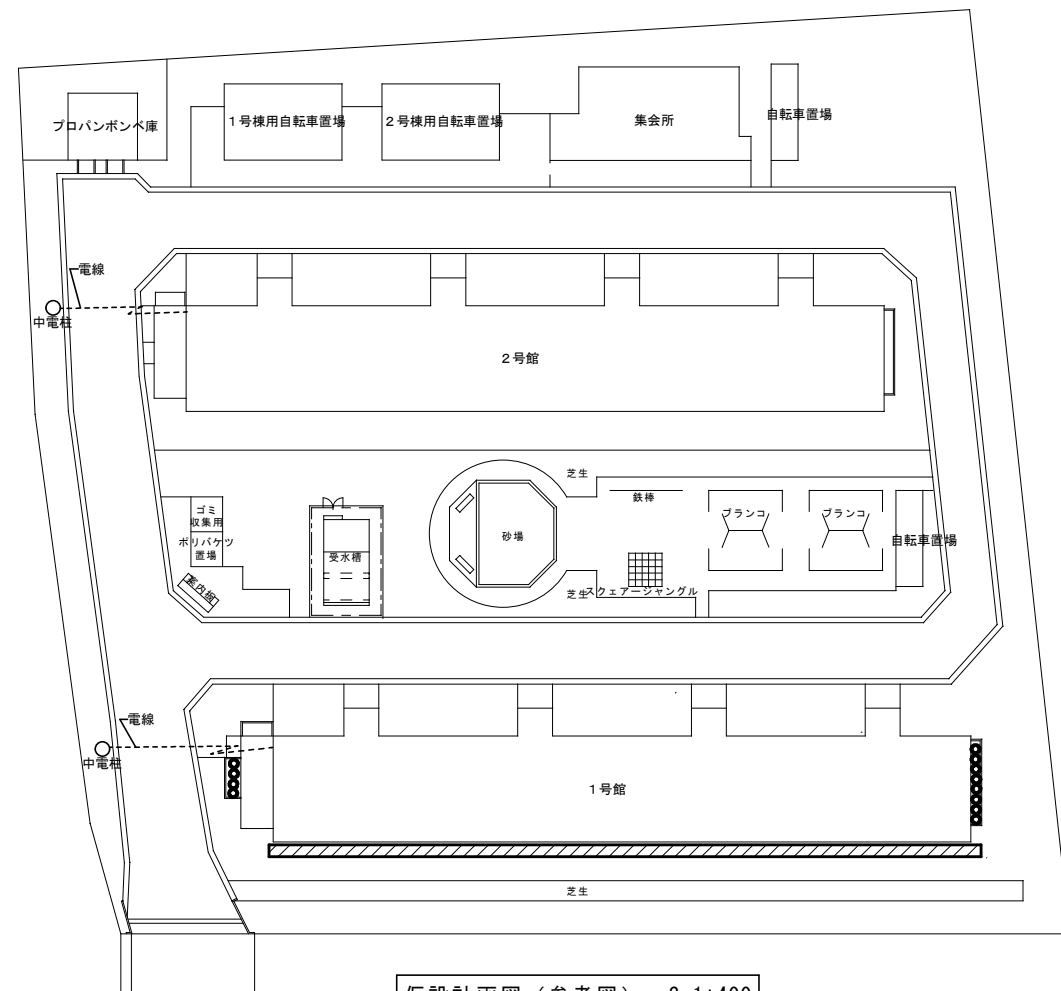
部分詳細図

縮尺

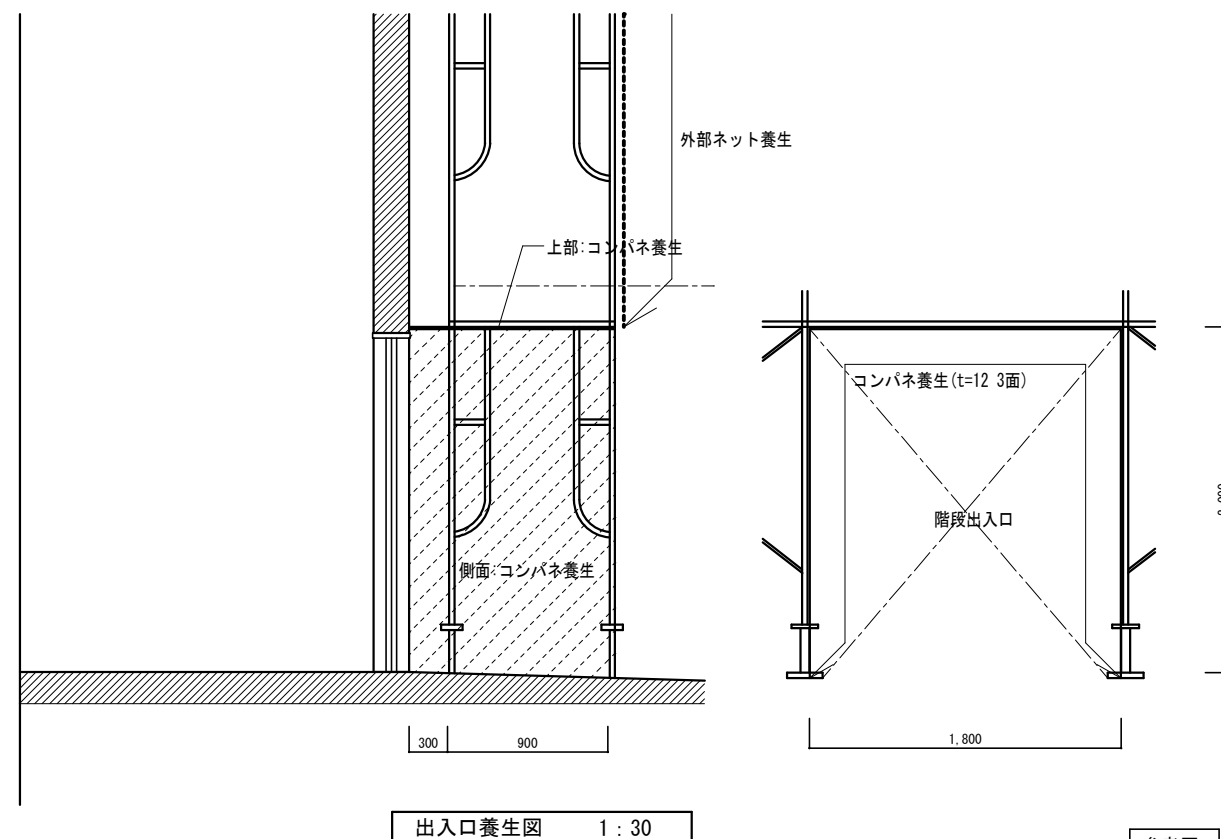
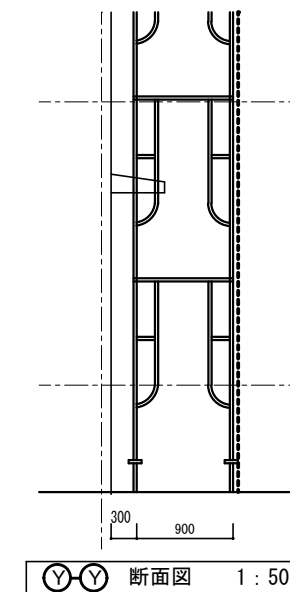
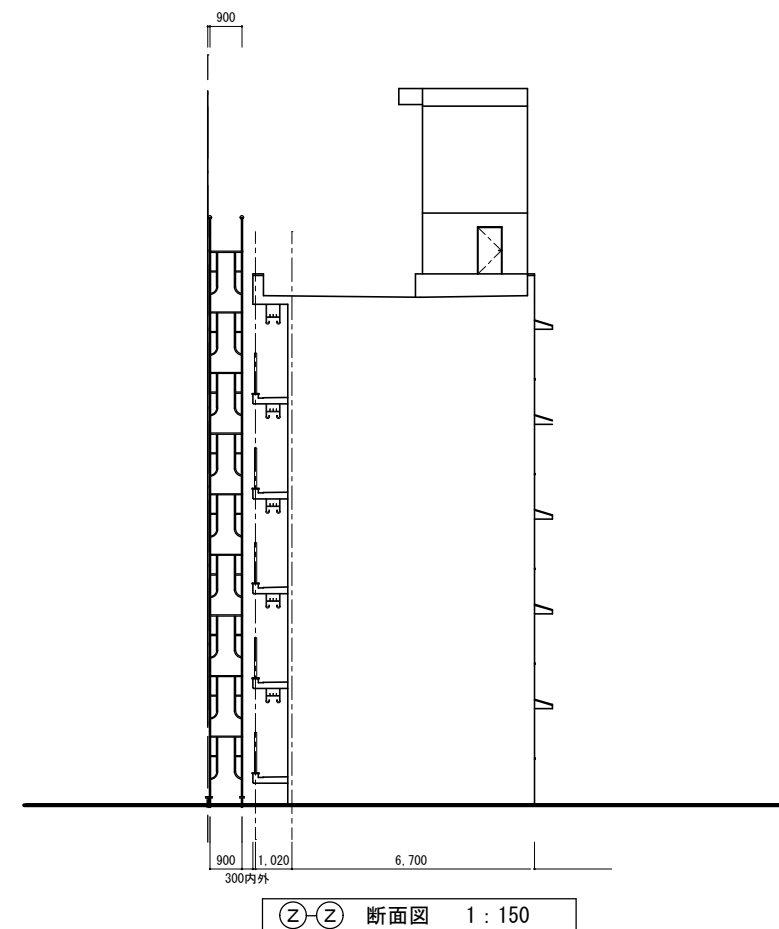
NS

図面番号

13



仮設計画図（参考図） S=1:400



参考図